

# 初年次教育学会

## ニュースレター 第13号

Japanese Association of First Year Experience  
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局

明星大学 菊地 滋夫研究室内

### 今号の内容

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ご挨拶</li> <li>2. 事務局からのお知らせ</li> <li>3. 学会誌編集委員会からのお知らせ</li> <li>4. 大会運営委員会からのお知らせ</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 地域活動活性化委員会報告</li> <li>6. 課題研究活動委員会からのお知らせ</li> <li>7. 将来構想実行委員会からのお知らせ：「2021年度教育実践賞」応募要領について</li> <li>8. 編集担当より</li> </ol> |
|--|--|

### 1. ご挨拶

会長 藤本 元啓 (崇城大学)

2020年度は新型コロナウイルス感染症という未曾有の経験をし、みなさまにおかれましては、大変なご苦勞をなさったことと拝察いたします。ご自身はもちろんのこと、ご家族、ご親族、知己の方々、そして学生さんはご健勝でいらっしゃいますでしょうか。あらためまして、お見舞い申し上げます。

さて学会誌13号でも述べましたが、本学会では昨年11月に前学期を対象とする「コロナ禍で生まれた初年次教育の取組」とパネルディスカッション「ポストコロナにおける初年次教育の課題と展望」をオンライン開催し、学会誌(第13巻)では「コロナ禍における初年次教育」の特集を組みました。

その主たる関心は、メンタルヘルスを中心とした支援と新入生にとっての有効な授業形態にありました。これらは成功した事例の紹介であり、参考とすべき点が多々ございますので、お役に立つことがあることと存じます。一方で、うまくいかなかった事例はなかなか公開されないようですが、その共通要因もあるはずで、今後、初年次教育実践交流会にて報告がおこなわれるよう考えております。

また学生調査データをとおした、コロナ禍における初年次学生の現状把握と大学が取り組むべき課題についての論考も得ることができました。各大学では学生調査にもとづく満足度の分析をおこなっていますが、質保証や学修成果測定などについての検証はこれからになるでしょう。そのためにも実施された調査項目や結果について、可能な限

りの公開が望まれるところです。

昨年夏以降、コロナ禍における高等教育に関するオンラインフォーラムやセミナーが数多く開催され、みなさまも参加されたものと存じます。私も可能な限り参加に努めまして、大学教職員各位の学生支援と授業工夫への献身的な取り組みの知見を得ましたし、気づかなかった学生の不安や不満も知ることができました。9月の本学会オンライン大会において、新たに取組まれた工夫、その結果(成功と失敗)、課題と展望などについての報告、意見交換ができることを楽しみに、そして期待しております。

おわりに、ご挨拶を申し上げます。2017～20年度にわたって、本学会の3代目の会長を努めさせていただきまし

た。その間、2018年の第11回大会(酪農学園大学)は、9月6日未明の北海道胆振東部地震のため初日の開催だけで中止いたしました。また2020年度の第13回大会(沖縄国際大学)は、コロナ禍による準備不足のため誌上大会に変更せざるを得ませんでした。2度にわたる大会の中止・変更があったことを残念に思っておりますが、それ以上に開催大学には多大なご迷惑とご負担をおかけしました。ここにあらためまして、お詫びと御礼を申し上げます。

また昨年8月、学会懸案の日本学術会議協力学術研究団体指定の申請をいたしました。審査に4ヶ月ほどかかることでしたが、結果はまだ届いておりません。ご要望に対して、遅々として進められなかったことをお詫びいたします。

お詫びばかりの運営でしたが、みなさまのご協力とご理

解とに支えられた4年間でした。誠にありがとうございました。今後とも初年次教育の進化と深化に向かって、一緒に歩んでいきたいと存じております。

みなさまにおかれましては、どうかくれぐれも、ご健康専一にて御身お大切にされますよう祈念いたしております。

## 2. 事務局からのお知らせ

事務局長 菊地 滋夫 (明星大学)

いつもお世話になっております。事務局長の菊地滋夫(明星大学)です。

### (1) 2021 年度年会費納入のお願い

お手元に 2021 年度年会費納入のための振替用紙が届いているかと思えます。5月31日までに納めていただければ幸いです。

### (2) マイページ活用のお願い

2016 年度からマイページの運用が始まっています。マイページには学会ホームページよりお入りいただけます。マイページからは、会員情報(所属等)の変更が行えます。4月以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入状況もご確認いただけますので、ぜひご利用ください。

ログインに必要な「会員番号」と「パスワード」は、2015 年度に会員だった方には 2016 年 3 月 16 日頃に、2016 年度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記載されています。今後とも必要となりますので、お手元にお控えください。

### (3) 役員(理事)選挙のお知らせ

2021 年度早々に実施する役員選挙の投票は、Web で行うことになりました。Web 投票の開始は 4 月中旬頃を予定しております。投票ページの URL は学会メーリングリストにてお知らせいたします。ログインの際に必要な「会員番号」と「パスワード」はマイページと同様です。

役員被選挙権および選挙権を有するのは、2020 年度に個人会員であり、当該役員選挙投票締切日(5月7日頃)の予定)において引き続き個人会員であり、2020 年度までの学会費を納入している方になります。

### (4) 学会誌バックナンバーの PDF 公開について

2021 年度より、学会誌バックナンバーを PDF 化して学会ホームページにて広く公開いたします。PDF 化につきましては、すでに総会にて承認・周知されておりますが、何らかの事情で、ご自分の論文等を Web で公開できない場合は、事務局までご一報ください。

## 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 田中 岳 (東京工業大学)

初年次教育学会誌第 13 巻第 1 号をお届けいたします。本ニューズレターと相前後して皆様のお手元に届くことになるかと存じます。投稿論文は、計 6 件でした。査読の結果、事例研究 1 件を採録できました。昨年 5 月 31 日まで延長となった緊急事態宣言下、投稿いただいた(また投稿を検討くださった)会員の皆さんにお礼を申し上げます。また本号では、特集「コロナ禍における初年次教育」として、6 件を掲載しております。御一読ください。次号においても、会員の皆様からの積極的な投稿をお願い申し上げます。

次号は第 14 巻第 1 号となります。原稿募集の概略をお知らせします。

### (1) 次号の発行時期

2022 年 3 月に第 14 巻第 1 号の発行を予定しています。

### (2) 原稿投稿の期限

第 14 巻の投稿締め切りは 2021 年 5 月末日です。学会誌の編集規程及び執筆要領に従っていない場合は、投稿論文を受領することができません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も 5 月末日となります。提出期限間際に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることがあり得ます。執筆用のテンプレート利用を厳守くださり、

特に図表については該当箇所を本文中に示すだけとして、図・表いずれもテンプレート末尾のページに掲載することになりますので、執筆を検討・開始する会員におかれましては改めて御注意ください。

### (3) 原稿の執筆、投稿、その他

初年次教育学会のウェブサイトに掲載している「初年次教育学会誌執筆要領」「論文執筆用のテンプレート」「カバーレター用テンプレート」を御参照ください。指定した書式通りでない原稿は、受け付けることができませんので御

注意ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/shippitsuyoryo/>

また執筆及び投稿にあたっては、事前に「初年次教育学会倫理綱領」の精読をお願い申し上げます。

<http://www.jafye.org/wp-content/uploads/kaisoku190907.pdf>

#### (4) 投稿論文の提出先

初年次教育学会ウェブサイト「学会誌」のタグにある「電子投稿システム」からお手続きください。

<https://iap.jp.org/jafye/post/Login>

#### (5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し3月末までに会費を納入している個人会員及び機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条を御確認ください。より多くの会員の皆様から、充実した研究論文及び事例研究論文の投稿をお待ちしております。

<http://www.jafye.org/society/regulations/henshukitei/>

## 4. 大会運営委員会からのお知らせ

大会運営委員会委員長 藤田 哲也 (法政大学)

2020年度の大会は、新型コロナの影響に鑑み、大会要旨集での誌上開催となりました。詳しい経緯は初年次教育学会誌にも記載しておりますので、そちらを併せてお読みいただければ幸いです。大会運営委員会としても、年次大会は会員相互が交流する重要な機会という認識は持っておりましたが、急激な感染拡大のため、オンラインでの大会開催のための準備も追いつかず、断腸の思いで誌上開催に踏み切った次第です。

さて、2021年度の第14回大会についても、残念ながら対面での開催は見送ることとなりましたが、会員の皆様にとっての「初年次教育に関する最新の知見を得る」「会員相互の交流の機会を得る」といったニーズを可能な限り満たせるよう、オンライン開催ではありますが、工夫を凝らして準備を進めているところです。4月に入りましたら、改めて大会での自由研究発表やラウンド・テーブル企画の申込、および大会参加申込に関するアナウンスを開始いたします。自由研究発表は、15分の音声付きのスライド動画を配信するとともに、掲示板において質疑応答を行う予定です。また、昨年度は開催できなかった、本学会の課題研究活動委員会企画のシンポジウムも、二本立てで鋭意準備

を進めております。情報交換会についても、皆様が自由かつ個別に会話できるよう、GatherTownを活用しようと考えています。いずれにせよ、対面での大会開催に見劣りしないような運営を目指しておりますので、皆様もご発表・ご参加のほど、よろしくお願いたします。以下に、現在のところ予定している大会概要についてお知らせいたします。9月のご予定の調整をお願いいたします。

#### 大会概要：

9月11日(土)、12日(日)の2日間をリアルタイムでの総会・シンポジウム・ワークショップ・ラウンドテーブル等のプログラムの開催日程とします。

自由研究発表はオンデマンド配信によって行い、配信期間は9月11日(土)から17日(金)の7日間の予定です。自由研究発表の質疑応答用掲示板も設置いたします。

#### リアルタイムでのプログラム配信スケジュール案

※諸事情により変更する可能性があることをご承知おきください

#### <1日目>

10:00-12:00

ワークショップ・ラウンドテーブル(2時間)

※この1日目の午前のセッションは、企画申込数が多かった場合のみ開催いたします。

13:00-13:30

総会(30分)

移動・休憩

13:50-14:00

開会式

14:00-16:00

課題研究活動委員会企画シンポジウム1(2時間)

「初年次教育における多様性にどう向き合うか」

移動・休憩

16:30-18:00

情報交換会(開会から中締めまで90分)

※情報交換会会場(GatherTown)は、リアルタイム会期中、ずっと開放しておき、「賛助会員の企業展示ブースと休憩室」を兼ねた運用となる予定です。

#### <2日目>

10:00-12:00

ワークショップ・ラウンドテーブル(2時間)

移動・休憩

13:30-16:00

課題研究活動委員会企画シンポジウム 2 (2時間半)  
「新型コロナウイルス禍が1年生に与えた影響と今後の  
初年次教育の課題」

16:00-16:10

閉会式

詳細については、後日、学会 HP および会員向け ML に  
てお知らせいたします。

## 5. 地域活動活性化委員会報告

地域活動活性化委員会委員長 安永 悟 (久留米大学)

今年度は、以下に概要を示したように、初年次教育実践交  
流会を北陸と久留米で開催することができました。新型コロ  
ナウイルスの感染拡大を受け、いずれも Zoom での開催とな  
りました。開催に向けご尽力いただきました皆さまに心より  
お礼申し上げます。

本学会では、地域での活動を活性化するために、地域の実  
情や参加者の要望に応じた実践交流会の開催を応援してし  
ます。参加者も会員に限定する必要はありません。企画内容  
は、初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えていただ  
いて構いません。ただし、単なる講演会にご遠慮ください。  
あくまでも初年次教育の一環として実施している授業や取  
組などに直接関与している皆さまの報告や話題提供、および  
意見交換を趣旨としています。

実践交流会を開催したいと考えている方は、学会事務局ま  
でご一報ください。「地域活動活性化委員会」がお手伝い  
いたします。

### 初年次教育実践交流会 in 北陸

日 時：2020年11月28日(土) 13:00~15:55

会 場：オンライン開催

テーマ：「コロナ禍で生まれた初年次教育の取組」

参加者：44名

今年で5度目の開催となる北陸では、コロナ禍での学生コ  
ミュニティの形成、ステューデント・スキル、およびアカデ  
ミック・スキルの獲得に関する教育実践例を5大学に報告い  
ただきました。パネルディスカッションでは、コロナ禍での  
授業形態、および学生支援に関する課題と展望を共有すると  
ともに、授業設計やカリキュラムデザインの重要性を議論い  
たしました。プログラムは以下の通りです。

開催趣旨の説明 垣花 渉 (石川県立看護大学)

### 第1部 実践事例報告

① 本田康二郎 (金沢医科大学一般教養機構)

「コロナ禍中の学生指導—金沢医科大学モデルの提案」

② 澤田忠幸 (石川県立大学教養教育センター)

「オンライン授業・ハイフレックス授業で駆け抜けた初  
年次教育 2020—混乱と学び」

③ 鈴木大助 (北陸大学経済経営学部)

「初年次生を対象としたプログラミング入門科目にお  
けるオンライン授業の教育効果」

④ 井上咲希 (金沢大学国際基幹教育院)

「コロナ禍でのアカデミック・アドバイジング」

⑤ 垣花渉・学生諸氏 (石川県立看護大学看護学部)

「学生の、学生による、学生のための新入生支援—学生  
自治会の事例」

### 第2部 パネルディスカッション

「ポストコロナにおける初年次教育の課題と展望」

コーディネーター：

藤本元啓 (崇城大学総合教育センター)

パネラー：

本田康二郎、澤田忠幸、鈴木大助、井上咲希、垣  
花渉、学生諸氏

### 初年次教育実践交流会 in 久留米

久留米大学で開催しています初年次教育実践交流会は「授  
業づくり研究会」または「協同教育研究会」と銘打って実施  
しています。今年度は2回実施しました。その概要は次の通  
りです。

### ◎授業づくり研究会 (第50回)

日 時：2020年11月14日(土) (水) 13:30~17:30

場 所：オンライン開催

テーマ：「協同学習の考え方と基本的な技法を学び、明日  
からの授業に活用しよう：新学習指導要領の趣旨  
とポイントをふまえて」

参加者：78名

内容：

事前オープン 13:30~14:00

(1) 講演挨拶・導入：安永悟 (久留米大学) 14:00~15:50

(2) 講演：鮫島輝美・京都光華大学 14:35~15:50

演題：「関係からすべてがはじまる—新しい人間観  
からみる協同教育の可能性—」

(3) 協同教育カフェ：須藤文 (久留米大学) 16:00~16:50

- (4) 連絡・閉会：安永 16:50～17:00  
オンライン情報交換会 17:00～17:30

総括：

鮫島先生によるゲーゲンの社会的構成主義は大変魅力的な内容で、今後の協同教育を考えるうえで、参考になる視点が沢山ありました。

須藤先生に進行をお願いした「協同教育カフェ」も好評で、グループごとに熱のこもった対話が展開しました。

今回の研究会、Web による初めての開催でした。新しい時代の新しい研究会をどうにかスタートすることができました。今後も、参加者の皆さんと一緒に、新しい研究会を模索していきたいと思います。

### ◎協同教育研究会（第51回）

日時：2021年2月27日（土）13:40～17:00

場所：オンライン開催

テーマ：「協同学習と探究」

参加者：41名

内容：

- 事前オープン 13:40～14:00
- (1) 挨拶・導入：安永悟（久留米大学） 14:00～14:20
- (2) 講演：須藤文（久留米大学） 14:20～15:20  
演題：「授業通信を通して考える初回授業の大切さ」
- (3) 講演：水野正朗（東海学園大学） 15:30～16:30  
演題：「高等学校国語科において求められる資質・能力を育むための授業づくり」
- (4) 連絡・閉会：安永 16:30～16:35  
オンライン情報交換会 16:35～17:00

総括：

Zoom 開催に変わってから、これまで以上に、全国各地から、高等教育関係者を中心に、参加者が増えました。

須藤先生による講演は、教職課程の道徳授業で実際に使った「授業通信」を課題文として、各自の授業との関連づけを行い、グループごとに交流しました。水野先生の講演では「ジーンズ」という詩をグループで読み解く作業を通して、高等学校国語科で実践されている授業づくりの実際を知ることができました。両方とも、これまでの実践に裏打ちされた内容であり、各自の授業づくりに大変参考になる内容でした。

なお、Web 授業における協同学習の実践方法についての意見交換もなされ、充実した時間を過ごすことが

できました。

## 7. 課題研究活動委員会からのお知らせ

課題研究活動委員会委員長 濱名 篤（関西国際大学）

### (1) 課題研究活動委員会企画シンポジウム

2021年度の大会では、2件の課題研究活動委員会企画シンポジウムを予定しています。1つは、「初年次教育における多様性に向き合うか」をテーマに、発達障害学生やグループワークが苦手な学生への対応・支援などについて話題提供とディスカッションを行います。もう1つは、「新型コロナウイルス禍が1年生に与えた影響と今後の初年次教育の課題」をテーマとしたシンポジウムです。2020年初頭より続く新型コロナウイルスがとりわけ1年生に与えた影響は大きく、初年次教育学会として取り上げる意義は大きいということから特別に設定しました。

### (2) コロナ禍における初年次教育の実態に関する会員調査

上記の特別テーマと関連して、コロナ禍で初年次教育がどのように展開されたのか、そこでの成果や課題にはどのようなものがあるのかといった点について把握・共有することは、会員にとって、ひいては日本の高等教育にとって重要であるとの認識から会員調査を実施する運びとなりました。理事を中心にワーキンググループを編成し、他大学で実施されている調査などを参考にしながら調査票を作成します。調査はウェブ形式で行う予定です。改めて、会員のみなさまにご依頼させていただきますので、その際はご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、当該調査の結果については、大会シンポジウムにおいて報告することを予定しています。

## 7. 将来構想実行委員会からのお知らせ：「2021年度教育実践賞」応募要領について

将来構想実行委員会委員長 山田 礼子（同志社大学）

初年次教育学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、このたび、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしました。審査の結果、選ばれた取組については、学会大会で表彰するとともに、学会ニューズレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を認め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。皆様、奮ってご応募ください。

### (1) 申請期間

2021年3月22日(月)～2021年6月30日(水)

### (2) 対象

本学会員が申請時点までに行ってきた大学、短期大学、高等専門学校等における初年次教育に関する取組。「取組」とは、1科目、複数科目、1年次のカリキュラム全体、高大接続、初年次教育と専門教育との連携、正課外の活動等を含む。

### (3) 申請者等

本学会の個人会員または機関会員。個人単独あるいは複数による申請、また、組織による申請も可。取組の担当者等に非会員が含まれることはかまわないが、氏名を記載できるのは会員のみ。なお、本学会理事による推薦を受けた場合、被推薦者に応募の意思を確認したうえで申請書を求める。

### (4) 申請の手順

- (1) 申請者は、所定の申請書を作成し、本学会事務局に申請期間内にメール(添付ファイル)で送付する。
- (2) 書類選考を通過した申請者は、申請書の内容に基づき、当該年度の期間内に初年次教育学会のHP上でポスター発表(PPTを作成の上アップロード)を行う(同大会では、申請者が関連のある自由研究発表も行うことを妨げない)。HP上にアップする期間及びPPTの枚数等については審査通過者に別途連絡する。アップするPPTは音声付きスライドでも、音声のないスライドでも可。

### (5) 審査方法・基準

本学会が設置する審査委員会が、独創性、適切性、有効性、汎用性、有用性の5つの観点から構成されるルーブリック(学会ウェブサイトにて公表)に基づいて審査を行い、HP上でのポスター発表者、及びポスター発表参観者からの投票結果も参考にし、とうて最終的に決定する。

### (6) 公表方法

審査の結果、選ばれた取組については、次年度の学会大会で表彰するとともに、これに先行して、学会ニュースレターによって通知し、学会ウェブサイトおよび学会誌において取組の概要と審査報告を公表する。選定された取組みは表彰される学会大会で報告発表をおこなってもらう。

### 送付先・問合せ先

初年次教育学会事務局分室  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5  
アカデミーセンター  
TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631  
E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

## 8. 編集担当より

総務・広報委員会 西村 秀雄(金沢工業大学)

### (1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブに本文(このファイル)および広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与していません。

<http://www.jafye.org/newsletter/nl13/>

### (2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

### (3) 事務局分室について

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

#### 事務局分室

〒162-0801  
東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター  
TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631  
E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局 明星大学 菊地 滋夫研究室内

編集: 西村 秀雄(総務・広報委員会)

(2021年3月31日第2版公表)